

日本労働年鑑 第59集 1989年版
The Labour Year Book of Japan 1989

特集 日本における外国人労働者問題

1 日本経済の動向と外国人労働者問題の推移

2 八〇年代の外国人労働者

(1) 西武流通グループの事例——一般企業での外国人正規採用のはじまり

一九八一年に、西武流通グループが外国人採用計画を打ち出したことは、マスコミでも大きくとりあげられた。それは当初、一の職種に一五人を採用する予定であったが、「日本人ではできない職種に限る」という政府の戦後一貫した方針によって、最終的には五つの職種に六人の採用が認められた。このときの採用条件は、「(1)日本語で日常会話ができる。(2)三年以上つづけて勤務できる。(3)専門的な知識や技術を持っている」の三点であった。

他方、同年夏には、神奈川県下の従業員三五名の半導体メーカーも一名の外国人社員を採用している。

日本労働年鑑 第59集

発行 1989年6月26日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)